

第1回御前崎市スクラムスクール運営協議会【記録】

令和5年5月18日（木）19:00～

テーマ「子どもの自己管理能力を育むためには」の方策や提案・課題

【A グループ】

- 子供のことをよく見て考えていくこと、子供のそばにいることが大事ではないか。
- 携帯電話など情報端末をいつから、どのように使わせたらいいのか心配している。使用させないことは、もはや時代に合っていないので、自分で制限できるような力を育むように心掛ける。
- 子供たちに自分が頑張っていることで喜んでくれる大人が周りにいることを伝えたい。
- 子供たちはいろいろなことに取り組むことで様々な力を身に着けている。この時期に大事なことを自分でできるように大人が見守り、しっかり向き合っていくことが大事で、愛情やコミュニケーションにつながる。
- 家庭の事情は様々であるから、各家庭でルールを作ることが大切である。
- 親子で一緒にやることを大事にしながら楽しいことをたくさん伝えたい。
- メディアを遠ざけることは無理なので、ルールを作ったり声を掛けることで制限することができれば自己管理はできているのではないか？自分で上手く利用できるようにしていけばよいと思う。
- 一人ひとりに寄り添うのは時間も手間も掛かるが大切なことなので、子育てに目標をもち、褒めていくとよい。
- 大人が見本になることが大切である。
- 何でも言い合える親子関係を作れるとよい。
- 自分も親から『こうなって欲しいと思うとそう育つ』と言わされてきた。力を伸ばしていくるような声を掛けるようにしている。
- いつも子供に寄り添い味方だと伝えるようにしている。
- アイパッドなど情報端末を使用する時、使用時間に気付かせるようにしている。
- 眼に負担が少ないゲームを選ぶように一緒に考えるなどの工夫をしている。
- 幼くてもアイパッドやスマホをさわらせ泣き止むようにしている家庭もあり、早く与えすぎかなと思うが、周囲の大人が真剣に考えていくことが大事である。

【B グループ】

- 自己管理能力には子供自身の気づきが大事で、動画を見ながら宿題をすると叱られたり時間がかかりなかなか終わらないので、集中してやった方がいいと気づく。
- 自己管理能力を育てるとは自律につながり自己肯定感や達成感につながる。学校では所持品の管理や時間の管理などルールを守ることを指導し、家庭では親がやればできてしまうが自分でやることをつけ、園では自律の基礎を育むことが大切になる。
- 今の子は自己管理能力が乏しいと感じる。『間違っても失敗してもいい』というのがない。失敗を恐れる傾向が強い。家庭では見抜けない状態があり、そのことを子供は分かっていて、学校ではしっかりとやっているのに家でもしっかりとやらせたい。
- 方策として、学校は『こんなことをしている』と保護者に発信していく。子供が自分で決めていく経験をたくさんするとよい。『失敗してもいい』と思えるには、その過程を見て頑張りを認めてあげることが必要だと思う。
- 先生の一言の力はすごく大きいと感じる。『もう少し頑張るとこうなるよ』と言われると励みになる。
- PTAの運営はどうだろうか？大人が子供たちに何ができるかということを実践していきたい。保護者間が希薄になりつつあり、個々になってきている。
- 通学班などのつながりを活かせたい。

【C グループ】

- メディアの使用時間の決定の仕方を親（大人）が決めるのではなく、子供と相談しながら子供が決定していくことで自分でコントロールさせていくと約束を守る姿が見られた。
- 学校では5、6年生向けにNPO法人e-lunchさんによる『インターネットの安全な付き合い方』の講話をしてもらった。講話を聴いた後、友達とルールについて話し合って考えさせたが、そういうことが大事だと思う。
- 時間の管理だけでなく自己管理できることを増やしていくとよいのではないか。
- 子供たちは大人の姿をよく見ているので、大人の姿勢も正して見せていかなくてはならない。
- よい生活習慣を身につけるには子供との過ごし方も大切で、プロテインだけで朝ご飯を食べない親世代が増えているが、大人の生活習慣を正していくことは大事。
- 家庭でも子供に計画を立てさせれば、自己コントロールするようになり計画を立てる習慣が身についてくるのではないか。
- 子供たちは同じ場所に居ても面と向かって会話するのではなく、LINEなどで会話して直接会話することが減ってきていることも問題である。
- 自己管理することが多過ぎるので、親がちょっと工夫してあげると自己管理ができやすくなるのではないか。
- 目標を達成したら何かが得られる、『できたら、うれしい』と感じられるようにすると自己管理することにも取り組むと思う。

【D グループ】

- クロームブックを持ち帰りしているが、学習に向かう時間も画面に向かう時間も多い。
- 『早寝・早起き・朝ごはん』の早寝が課題で、メディアに接する時間が増加している。御前崎市として「ネット依存・ゲーム障害に関する講演会」をすべての園で実施している。
- 環境作りが必要で、家庭として9時に寝るなどのルールが必要で、親もルールを守る環境を整えたい。
- 5年前の浜中とは子供たちの姿が著しく変わったが、何が要因かそれが分かればずっと安定した学校になると探っている。いくつか要因はあるが、①生徒たちが「きれいな校舎を後輩のためにも維持したい」と声を挙げ活動している。②生徒会で自分たちでルールのいくつかを決めて取り組んでいる。③教師が『失敗はしても生徒に任せよう、考えさせよう』としている。④保護者や地域が褒め上手。⑤黙働清掃、かかとピンなどの小中連携の力があるがたい。
- 池高も10年前と変わっている。やはり連携・協力・交流の力が大きい。自己肯定感の向上にはボイスシャワーが効果的で、認められると生徒たちはやり抜くし自分たちを律するようになる。
- スクラムが始まって10年、池高生の身だしなみ、あいさつなど明らかに変わった。
- 島田教授の講義から『素人の意見が大事』とあったので、臆せず伝えるつもりと考える。
- 御前崎の子供たちは本当によくあいさつするのでよいと思う。

【E グループ】

- 子供たちに自信をつけてほしい。友達の良い所は見つけられるが自分の良い所は見つけにくい。今年は自分の良い所を見つけられるよう褒める取り組みに力を入れている。
- 宿題など自分からやり始める姿を褒めている。
- 親はあえて指示しないことで姉たちが手助けしている。父親としてフォローを大事にしている。基本的にはのびのびさせている。
- けじめをもった方がよく、手を掛け過ぎず自分で判断する力を育てたい。自立させることが自己管理能力につながる。
- 他人のことは分かるが自分の良さが言えないのは日本人の特性なのでは。子育て中の親はなかなか余裕がもてないので褒めるより指示しがちになってしまふ。そういう意味で祖父母の力は大きいと思う。子育ての手助けは必要である。

- 白羽地区の子供たちは優しく思いやりのある子供たちである。家庭や地域の温かさもある。いろいろな経験もさせてもらっている。子供の人数が減ってきてる分、声や手の掛け過ぎに気をつけ、自分で考えて言ったり行動をとったりすることへも心掛けている。
- 総合的学习、生活科など地域の方々の協力で子供たちのやりたいことを実現させることができている。
- 子供たちの体験できる場、地域行事で人とつながる場、子供の興味・関心・子供の思いを拾い挙げながら体験を重ねる場も大事である。

【F グループ】

- 自信をつけることで自己管理能力につながるのではないか。
- 自分から言動することが苦手、引っ込み思案であるが、決められたことは真面目に取り組むことができている。
- 自信をもたせるには、小さな失敗をたくさんさせていくこと、その子の夢中になれるもの合う合わないものを探していくこと、園・学校で体験させていくことが大切だと思う。
- アカウミガメなどの生き物飼育、地元ならではの潮干狩り体験などを大事にしていきたい。
- 地域の方々の協力を仰いでいくとよい。地域には子供たちとかかわりたいと考えている方々が大勢いる。
- 市内の子供たちの交流もよい。一斉に合同で体験できるようなイベント、潮干狩り、山遊び、海遊び、畑つくりなど自然体験の中で子供たちがかかわり合えるように設定できるとよい。
- 小学校3年生以上には宿題を出さないで自分で決めさせる。やらされるのではなく自分が主体的に思考・言動するように変えていくことも子供に考える力につながる。ただ、課題は自分でできない子にどうやってその力をつけていくか。
- 浜岡はやんちゃで活発な印象、御前崎はおとなしく躊躇された子の印象を受ける。主体性や自分で考える力を伸ばしていきたい。
- 成長するにつれてリーダーとして頑張っている。

【G グループ】

- 子供の課題はタイムマネジメント、時間の使い方。スポ少に週3回通っていて帰宅が夜9時頃になってしまうので、身体も脳も興奮していて眠るまでに時間が掛かってしまう。
- 子供たちに主体性を育むために、子供たちに任せ考えさせている。失敗したら何が悪かったのか考えさせている。スマホについては持つべきではないと答える。家庭・学校で一緒に考えている。
- 学校のグランドデザインにあるように、指示することから問い合わせることにシフトし、生徒たちに考えさせ決めさせている。失敗したら次にどうするか考えさせている。そして自己決定する力を育成している。
- 自己管理能力を伸ばすには家庭環境も大切である。家庭での役割を分担することもそのひとつ。スマホについては、スマホその物は悪いものではなく、使い方が大事で、例えばリビング以外では使わないなどのルールを決めさせる。失敗したら何がまずかったのかどうしたらよいのか気付かせることが大事である。
- 学校、家庭に限らずいろいろな場でも自分で考えやってみるよう習慣づけたい。
- 自分で何をすべきか考えさせるために宿題を出していない先生もいる。
- 自己管理能力を育てるためには、子供たちに任せ、考えさせ、決めさせ、やらせる過程を経験させていくことが必要である。